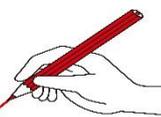


Move Mountains

5年生通信

2月14日92号



○「みゆ」のつく日本語

「しゃ、しゅ、しょ のつく日本語を3つずつ書きます」

この一言で、教室は熱中状態になります。

言葉を集める作業は、どこか魔力があるように思います。以前は「かめん→がめん」のように、濁点を付けたら意味の変わる言葉集めをしましたが、その時はホワイトボードが埋まりました。

ここでは、日本語という制限をかけることで熱中します。

ノートに書けた子から持って来て、ホワイトボードにある程度書いたところで次へ進みます。

「きゃ、きゅ、きょ のつく日本語を3つずつ書きます」

変化のある繰り返しといいます。同じ活動なんだけれど、ほんの少し違う内容に変わっている。これが熱中を生み出す仕掛けになります。

少し時間がかかります。「2つずつにハードルを下げましょうか？」と言うと、「待つて！」「もう少しだから！」「下げないで！！」こんな声が次々と上がります。

ハードルを下げられたくない。この言葉が出る教室は集団としてのエネルギーが高いことの証です。人は、思った以上に雰囲気左右される生き物です。こうした集団は、加速度的に成長していきます。

先ほどと同様にノートに書けた子からホワイトボードに書いていきます。

「続きますよ」と言い、無言でホワイトボードに「ひゃ、ひゅ、ひょ」と書きました。すると、もう止められません。指示は必要ありません。必死に頭を回転させます。

ちなみに、ここから固有名詞もありとしました。そうしないと出てきませんからね。

さて、「ひゃ」と「ひょ」は出てきます。が、「ひゅ」だけは出てきません。

実は、ここにも熱中を生み出す仕掛けがあります。適当に拗音のつくものを問題にしているわけではなく、段々と難易度が上がっているのです。

というのは、日本語は「さ行」が一番多く、次に「か行」「あ行」の言葉が多いのです。実際、国語辞典を見て見ると「あ行～さ行」までで半分が埋まり、圧倒的に言葉が多いのです。だから「しゃ、しゅ、しょ」から始めます。

「ひゅ」は…「日向」が代表的な言葉です。「ひなた」とも読めますが。とある子が「あのアニメに出てくる！！」と興奮していました。

そして最後です。「みゃ、みゅ、みょ」これは一つずつ書けたら花丸です！

これも「みゃ」と「みょ」は出てきますが「みゅ」は出てきません。

なぜなら、知らなければ解けないからです。

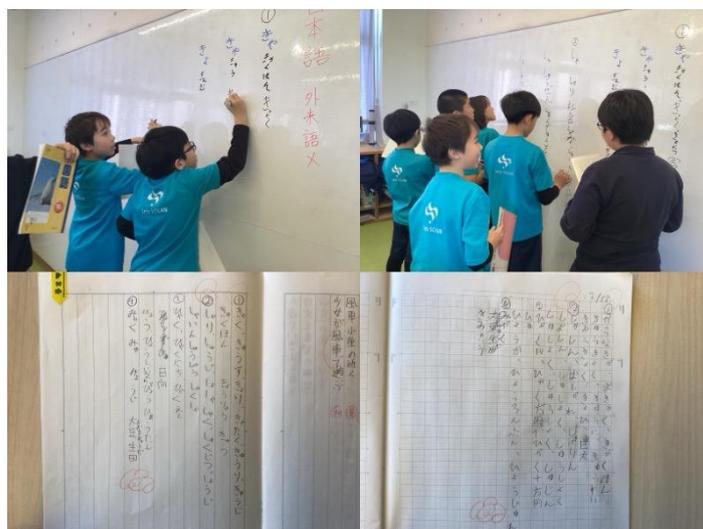
「みゅ」のつく日本語は一つしかありません。逆に言うと、その言葉がなければ日本語の音韻体系に「みゅ」はないと考えられることになります。

(余談ですが例えば日本人が「th」の発音ができないのは、音韻体系にその音がないからです。ちなみに、赤ちゃんの段階では、どの言語のどの音でも聞き分けられる耳を持っていますが、母語を習得する過程で「必要ないものは捨てる」作業をしています。これが母語習得を早めるポイントになります。)

言葉の世界は面白い、そんなことを味わってくれたら幸いです。

熱中の様子はこちらに動画を入れてあります。「ひゃひゃひゃ……」「ひゅ～ひゅ～ひゅ～」「ひょっこりはんは！？」など、繰り返し繰り返し唱えています。

https://drive.google.com/drive/folders/1-Rxpbz_Uk7YBxz7mED6NiUKsjPaFyRD7



☆お便りフォームはこちら☆

<https://forms.gle/ndGkDHTYcmB1bWyU9>

